天王寺彼岸中日

853
232

取扱注意
快入

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』 請求記号 853-232

ガラス使用

天王寺彼岸中日

国立国会図書館

国立国会図書館　　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232

ガラス使用

853
232

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

いまぞさかりなれば。志ぢらくさうそくせずやとおもひ。
立よりて。笠をあんぢにしてとりけるものの
なかに。はかりよさくやは花の面ごりとおもいぜしはは小八乃とする
うゆ花の間よりさく花はかわい樹うの風へ樹。志ずがぬぐん
ぞうさりがぬ夕ぞれるぬれひぢくや。花をさしうるうむ
ごくて。こぞれんやいと樹をとがこはとしやうきひやこざ
くちれおちござくて。花はさまざまにかれ乃れどひん樹
乃さ花をまたをやうなりしそのふぜい乃小やどなる花人を
見て花といひしもとりやのこれさらくは花に
身をうへ毒んせう一こくあさひせ合れこ志んのいひつ来も。

りくやと汗志望て。志ぢらく御ぬるりしが。おくをろさ我がん
さ花をぞれる花は半ばもひぢ合ぞくは今を歴とさ花をぞ海。
おしはいまぞつがえしもおこ乃へ出るもおこ志ぢくようねも。
只一百れ嵐まそつがじもひくくもの見にはちりもあくたと
なりもつるさりなぐし花はちりもとうる長にさ花小れ。おらぬ
無へ乃ぐへをしるも若もひ毒れ。あしにさそれれは。
ちりれるのの一人もなし。おく定なの浮世やと志ひつぐけた
うく汗。誰とそれ。いろいろおぼえじ。しり祢れ。夜であれ。御る花や
あるじ。ぬんとくちどさて。花をなぐあもぬるりしが。なぐた
びのつまといひ。花はんんやうは見れんひぢをまくれ

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232
ガラス使用

第二

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

歯禅人は周まは凡四文十人もとゝ為ばしゞ。そうじてもゝ為ばしを
言まずかうしとも。此今は此物語をんは秋思ハ同んなりしと
そうぞ云ひてぞゐたりける。年秋大人は立後也。やあ志
たなかゝ秋思ゆごと紀の思人よいひ少しと爲ばかりあり孫
たゞ。ゆあおきまゝ志ゞ也。そこをれ四せしまゝ孫。まきたく
こよひ文ぬたは觀音はらいかうとしもいとゐる。なほこうひ
乃ゐへきこと。ぞのまさへぞなりしゞ。なほどるハ。りやまゝ為ば
てきこえ志とされといかゝる。秋思ひざこそなりし何事を
ゐりやごと紀のゞ也。とやゝ。たゞ四きこ法て紀ハいさ志
ずせんどるれ。此ゆいせ紀をつがんものそれしなりは見えぞ。

ゐふよりして楊はおハそれしゝ女ばうへ。いかにはらひ此の大今
より後ハ己ミ三世無とハ見ひとなりことにそ也ぞ。あれおひ
ばきたゝ。いぶにおまずぐ一出せとゝ。ゐるとゝおんていりしハ
(うらう)
(ちるおし)編に屋やはとくへ年秋今ハ屋まりしぜんぐいみなん此大恩
人。討てもとてんと志力れつれ手をかけ也。然又帝此四立上り
。見さくるぞりぞこなり。何事をも討にせんとや。おおりれ
く。出おぢをいのかくべいこさんと。我からんとする所ぞ。大
勢れ対手ごあれしゝ。つもさにはたてうきこと。さ時ゝ
あき洞をなぐし思く叔あさましきぐ事ある。さ事ハ
志よぞんと志ぜしてもしじゆくいく志るはあしさまゝ。うつて

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

ゆせのまゝいまでもながく夏の命にて
ありしとはいへ思ひぬ命ごとに越ハけ後も庵の庵の
なりずく父上とゝなるとてもし志なき
れもなごりおしきハ母上なほ
言葉まもそこまでいれくしなりく成支ぬ
ぬあふぎなうしいはしなく成るゆゑなるゝ父母
ハ是ゆけとよそぎけぐひぞ今ハ
父母ハ母ハ親も程乱こまでいれ
ものなるひ人ハ親のなるひすそ子とせんとするハ
いまぞ年ハ至ってぬ子なる是ハ
ひりもなるさもいふべきに。

親の身をもてくむごハ志まざハ何のぞ昔今ハ
あやと教子ハあれど子とこゝと親なりあれ庵ハなり
かも記ハのしてあしきせんなりとつるなそ一志よにがれ命を
うこえかとちてなげうてよりなも同なるにかなりわげ
むことりハ去ながらよく思ふそよも見へ一命たゞ下と思ふ
此子とハ何ゆへてこゝなる是事なる
ゆゑしれ志ごいへとちゝめなりとのこすず法ぶんゆなけ子
り母父がうてうてなるとまざこと
と悲て情なや弟や母ハ言葉ハとなり只今志をなる
とりまでも父ハよいなどして
むなしく物ふびんさとハ

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

はすれながらふる。見立は子が浮れ世をたとけ事やなむ佛と。
洞ながらに詠きバ吉野とよまれ行續くあべのくりやこる月の。
松乃志ら乃風とごく今ハ親子れちきりをまゝと雲ハ
うらわしや新田れ山ハ風ゆきて楫にさてもぬのびきれ鶴
ゆえまさる新田ゞし。和義にもながる神なれ。みむろれ
山乃夕志ぐれもなれさうりとこれ黒波に此神ハ此山
となるまれまとせ事ふとうや志なれ松乃つきにハいせ
乃中れつゝだらきれだうこれにこひしくハ易てきませ
歌やとハこれ山のもと松そるなど。雲井れもしの中
たてむろれいはれわけこれとなれたりてるひだり山。

もろせれなのもろ志りくきて。もろなれとさるこの三れりの舟
小家で行むつぶれまうしおるてまもちもの花れひらく成
八重九重やこふ乃ふ。こまりうもの此神ハ此子三十六人
まで。かんせまふと空成にあくあさましやこ歌ハ後ろ
二人乃ちきてもなすよにぐれそひよせで。あや子ハ一せも
安なるに。まゝいけれよかあふ屋きこと。くどいけるいけるまれ
こ乃わよしまくよろくと。ひつじれあゆこ程もなく。
とと山陰の志がりあふ松れ。もやしに。つきこまふ。あら
いさりしやとよろハ洞ながらに。こ重と元あ。れ志ふいをもう
ふんと志まぐ。はハ志がふよとがり年。なふ家書今が

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』 請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232

ガラス使用

せんとゝ見て。人々舟たまとゝいちうに志づいと志ぐ。さよろが志んぬれ
出。(比ひろ)あつまひ小かりしハ一つ。さなり。ゑ(ゑ)志ぐ。へ(ゑ)も時さよろ
多さあれ見てわれば。(ことも)ゑさ(ゑ)しりし天王寺らのしの石よどう
ぜんとしてゐ下ゐる。見ハ掛さそゆわまそ志ゐるよ。掛さきこ
のゐ元や。(ゑ)見ハ父志ぐさゐ元志ゐれど。実まことゐ見しゐるせいハ
かんえのまつれ多ハ。又千年ハ思ハぐハとわハゆひりくゐれ正
よ見ゐりとゝ。ぞれのこゝろどさゝ志うりこそ。ふれゆわ見
らハこゝろ見ぬ。ゐりしれ抱ゐ。まさしくかんそうにあつて
とゝ。ぞれし十とせあまりのもるわれとひいがしとまつと。
こゝ一とハよゐるゐ見ひとゝよろせいがかんえれ多よあいあ。

つくゝ人々ハ志ゐ海とあんどるに。百年ハ分んらくよめいあ抱
ゆわぞうしぞるそもゆわハ見てつまや子と。今一わ見まく
ハやとゆわれもちぎりと思ひ出(ひとり)ぐ(ひとり)に生て。ゐられゐる。
ゐるゐ(うり)ひちうに三ヘ在ゐふ。おかそも仙人のぜんと来(あつ)せ。
ト(ハ)ひれ(ゐ)ゐ(ゐ)ふ(ゐ)ゐ(ゐ)とよろ見れしと見志りるぞんぶむちゐ
志と抱ゐる仙人そまきどや。あさゐるゐ我海ハ
志ゐ門とわそあほとゝ。ゐんぢ志ゐ神人の時よりふがれ
とゐげれ。ゐんとんと志んじまるゆへ。志大ひれもうぐんとん。
十とせれもるわれとをゐることゐるに。ぜんぎゐにいる見天王寺
ハ。ぞのちゐ人々ハ人ハでりも其れゆしと思ゐ。ゐ(ゐ)ハ

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232　　ガラス使用

853
232

国立国会図書館　タイトル『天王寺彼岸中日』 請求記号 853-232
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『天王寺彼岸中日』　請求記号 853-232

ガラス使用